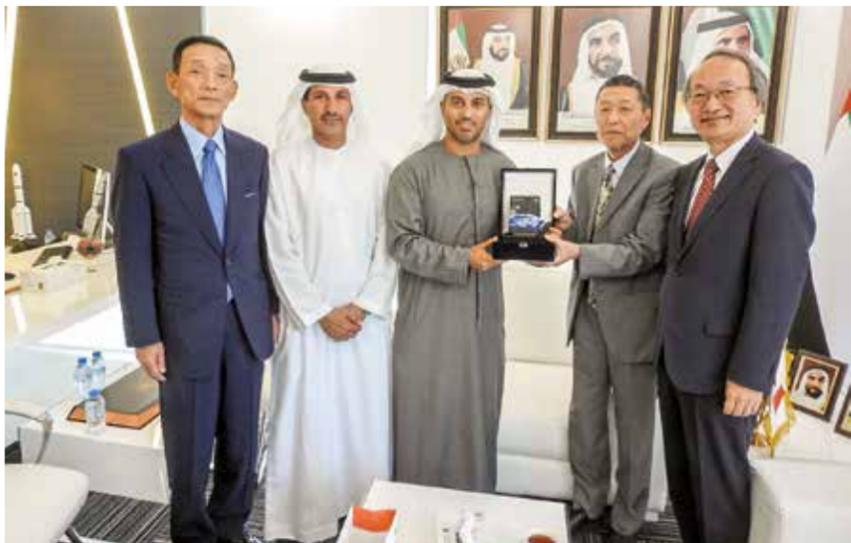


# UAEの宇宙教育支援



UAE宇宙庁で(左から)瀬戸熊理事長、アハバビ事務局長、ファラシ長官、松井常務、藤木大使

## 本学が日本の数大学組織し

### 2大学へ技能や教員

建国50周年の2021年に火星への無人探査機打ち上げ計画を進めているアラブ首長国連邦(UAE)の2つの大学の宇宙科学教育を、本学が日本の大学グループを組織して支援することになり、瀬戸熊理事長らが訪問して1月22、23日、UAE側関係者に書状と別項参照IIを手渡した。日本とUAE両国政府の間では2016年5月、内閣府・経産省・文科省とUAE宇宙庁が宇宙分野における研究開発、人材育成、産業発展などに関する協力文書を取り交わしている。

#### 瀬戸熊理事長ら訪問し書状渡す

今回の大学支援はUAE宇宙庁が日本側に要請したもの。昨年1月にUAEの大学生を受け入れて「宇宙教育プログラム」を実施し、高く評価された本学惑星探査研究センター(PERC)が取りまとめ役となり、国立大学を含めた日本の数大学を組織して支援を行うことになった。

瀬戸熊理事長と松井孝典常務理事・PERC所長、秋山演亮主席研究員、染谷明人法人事務局長の一行は1月21日、アブ Dhabi に到着。22日、藤木完治・駐UAE大使とともに宇宙庁を表敬訪問し、アフマド・ビン・アブドゥラー・フメイド・ベルフル・アル・ファラシ長官と、ムハンマド・アル・アハバビ事務局長に、同プロジェクトへの協力内容について大筋を提案した。

続いてアラブ首長国連邦大(UAEU)を訪れ、同大学に新設される国家宇宙科学技術センターのシニアアドバイザー、ミシェル・トーマス・マックグラス氏に瀬戸熊理事長名の書状を手渡した。さらに翌23日にはドバイに移動し、今回の支援対象となる2つ目のシャルジャ大を訪問して、学長のハミド・M・アル・ナイミ教授に同様の書状を手渡した。

**NEWS CIT**

2018  
**2.15**

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部  
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼  
2丁目17番1号  
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344  
<http://www.it-chiba.ac.jp/>  
毎月1回(8月を除く)15日発行

**ニュースガイド**

2面 佐々木さん若手優秀発表賞/椿さん2年連続受賞/ライダー全国大会へ/新評議員に2氏/小黒さんペガサス入団/サイバー監視に学生ら協力

3面 小惑星Matsui...捉えた/地方活性化へ提言/南房総市にCIT技術/新習志野駅デザイン提案/都市鉱山メダル展示椿寮でひな祭り/モンゴル写真展開く/未来人「鳥飼さん」

4面

## 30年度入試の本学志願者

平成30年度入学試験 学科別志願者数		センター利用試験			
学部	学科	30年度		前年度	
		30年度	前年度	30年度	前年度
工学部	機械工学科	1,991	1,928	2,162	2,247
	機械電子創成工学科	1,427	1,383	1,620	1,632
	先端材料工学科	1,360	1,346	1,489	1,515
	電気電子工学科	1,761	1,643	1,869	1,911
	情報通信システム工学科	1,727	1,539	1,844	1,821
	応用化学科	1,235	1,181	1,265	1,336
創造工学部	建築学科	1,706	1,638	1,750	1,880
	都市環境工学科	1,406	1,223	1,493	1,533
	デザイン科学科	1,397	1,210	1,539	1,488
先進工学部	未来ロボティクス学科	1,621	1,585	1,721	1,811
	生命科学科	1,125	1,092	1,159	1,202
	知能メディア工学科	1,670	1,341	1,694	1,571
情報科学部	情報工学科	2,156	1,898	2,197	2,298
	情報ネットワーク学科	1,769	1,567	1,927	1,909
社会システム科学部	経営情報科学科	1,031	863	1,174	1,204
	プロジェクトマネジメント学科	911	786	1,118	1,076
	金融・経営リスク科学科	852	726	999	1,011
全志願者数		25,145	22,949	27,020	27,445

## センター利用(前期)2196人増

1月13、14日(土、日曜日)の大学入試センター試験を皮切りに入試シーズンが始まった。本学も、センター試験を利用して入学志願者の可否を決める大学入試センター利用入試を実施。今年度本学会場では受験生1990人を受け入れ、両日とも試験は順調に終了した。

今年のセンター試験の志願者数は全国で約58万3千人。本学センター利用入試(前期)の志願者は2万5145人で、昨年より2196人増の志願者数となった。

続いてA日程入試試験が1月31日(水)から4

日間の試験期間で、A日程志願者数は2万7020人で、昨年よりわずかに425人減少した。

1月13、14日(土、日曜日)の大学入試センター試験を皮切りに入試シーズンが始まった。本学も、センター試験を利用して入学志願者の可否を決める大学入試センター利用入試を実施。今年度本学会場では受験生1990人を受け入れ、両日とも試験は順調に終了した。

今年のセンター試験の志願者数は全国で約58万3千人。本学センター利用入試(前期)の志願者は2万5145人で、昨年より2196人増の志願者数となった。

続いてA日程入試試験が1月31日(水)から4

日本にとって最大の原油供給国の一つであるUAEと親密な関係を築くことは、国家戦略的にも大きな意味をもつ。さらに本学のグローバル化を一層進展させるという点でも、UAEの大学支援に本学が主導的な役割を果たすことは画期的な意義があると言える。

**カリキュラムや衛星、隕石研究**

瀬戸熊理事長らの今回のUAE訪問では、2つの大学への具体的な支援の内容についても話し合われた。

同連邦を代表する大学

**平成29年度 学位記授与式**

平成29年度の学位記授与式は、3月22日(木)午後2時から、幕張メッセ・イベントホールで挙行されます。入場受け付けは、学生・父母とも1時半から開始します。開式(2時)以降の入退場はできません。なお、学生は当日「学生証」を必ず持参してください。

**2大学への本学書状**

拝啓

このたびは日本国政府とUAE政府の合意に基づき、UAE大学(シャルジャ大学)の宇宙に関する教育プロジェクトへの協力を提案できることを大変嬉しく思います。千葉工業大学は、アラブ首長国連邦宇宙庁の支援のもと、UAE大学(シャルジャ大学)との合意に基づき、次の事項を推進します。

1 UAE大学(シャルジャ大学)を支援するための日本の大学グループを組織する。

2 同大学の教職員や研究者に対し、宇宙科学技術分野での技能や管理を訓練する準備を行う。

3 上記の事項を推進するための詳細な計画は、両者の協議により作成する。

このプロジェクトの推進により、両機関の協力関係が更に発展することを祈念いたします。

敬具

学校法人千葉工業大学 理事長 瀬戸熊 修

持っている超小型衛星の打ち上げと運用についても、PERCが実績のあるS-CUBEの技術を使って支援する。2月に宇宙理学・工学のシンポジウムを開催することで、また、UAEを構成する7つの首長国の一つであるシャルジャにあるシャルジャ大に対しては、宇宙の謎の解明に不可欠な隕石の砂漠での探査と分析をPERCが指導することで大筋合意。中東各国の中でも砂漠面積が大きいUAEは未発見の隕石探査に適しており、火星無人探査機打ち上げで関心が高まるUAEの惑星科学の進展に役立つと期待されている。



# 小惑星「Matsui…」捉えた!

PERC所長名の星 小惑星帯に

惑星探査研究センター(PERC)の松井孝典所長の名前が付けられた小惑星「301 Matsui takafumi」を昨年12月7日、PERCの吉田三美研究員らが観測した。

「Matsui takafumi」は火星と木星の間の小惑星の軌道が集中している領域「メインベルト」にあり、直径6・245キロ、公転周期1526日であることがこれまでの観測から分かっているが、その他のデータはほとんど得られていない。

1993年1月2日に、アマチュア天文家の浦田武氏と名取亮氏が発見。小惑星の命名権は本来、発見者に帰属するが、浦田氏が亡くなったなどの事情で、松井フ

アン」のアマチュア天文家仲間を通して、松井所長の名前を付けたいという提案が持ち込まれた。12月7日の観測は和歌山県日高川町のかつべ天文公園にある口径1.8メートルの望遠鏡を使って、日本大学の研究室と共同で行われた。松井所長も加わり、カメラにこらえられた「Matsui takafumi」に興

## 「新習志野駅」デザイン提案

橋本研が発表・講評会 JR支社が協力

デザイン科学科3年生の後期の授業「デザインセミナー」で、JR京葉線「新習志野駅」を対象としたデザイン提案に取り組みできた橋本都子教授の研究室の学生による最終発表会と講評会が1月29日、津田沼校舎7号館で開かれた。



①熱心な意見が交わされた発表会 & 講評会 ②提案を見る参加者

建築技術、駅関係、企画担当などの職員からのレクチャーやヒアリング、現場と周辺地域の見学など。発表会では、JR東日本千葉支社から鈴木

味津々の表情で見入っていたという。この観測データから、この小惑星の新たな姿が明らかになるか、期待されている。



小山和也研究室などは「エコテック2017」で地球環境ソリューション展「エネギー」先端技術展(昨年10月11、13日、西日本総合展示場新館で開催)に展示し、リサイクルの先端技術を紹介した。

北九州市立大エネルギー循環化学科、(株)アステック入江との共同研究の成果。

木孝子設備部長、吉田智一、新習志野駅長など11人の職員が参加。大川茂樹副学長も交えて質問や感想、熱心な意見交換が行われ、最後に参加者の投票で順位を決めた(掲載順)。これらの提案は今

後、JR内でさらに検討を加えられ、実現される可能性もある。なお、修士一十年の森亮太さんも「EKKILEIGH」と題した提案を行った。

小山研究室では、都市で廃棄される携帯電話、スマートフォンなどに高品位で含まれる金やレアメタルを、水溶液を用いた電気化学的手法や化学的処理により分離・回収しリサイクルする方法を研究している。展示メダルの母材は銅やめっきされた金で、リサイクル原料から分離・精製した。小山教授は「今後も産官学連携でリサイクル技術を研究し、実証や共同技術の開発につなげていきたい」と語っている。

## 地方活性化へ提言

本学チーム 県事業3市を対象に

少子高齢化や人口減少による過疎化に悩む千葉県内の市町村の活性化策を千葉県内の大学から募る県の事業に、本学の建築、都市環境、デザイン科学科とプロジェクトマネジメント学科から合わせて6研究室が参加し、高い成果を上げた。

廃校舎などの空き公共施設を有効活用して地域活性化につなげようというこの事業で、本学の研究室は▽田島研▽銚子市▽八馬研▽稲取研▽勝浦市▽鎌田研▽大嶋研・



提言を並べたポスター

加藤研▽南房総市と地域を分担。それぞれの研究室が修士課程と学部4年生の有志をメンバーとしてチームを組み、昨年4月から活動を続けた。活動は、市役所職員や地元経済界・住民のキーパーソンへのインタビュー、現地調査と聞き取り調査など多岐にわたり、中間とりまとめのための合宿も組み込まれた。

こうして集めた膨大かつ細密な資料をもとにチームごとに提言をまとめ、12月までに各市長や地元有力者、県の担当者などを前にしたプレゼンテーションを終えた。

各チームの提言は、銚子市チーム 今年3月で廃校となる市立猿田小学校の校舎活用。市の主幹産業である漁業に加えて、農業の新たな拠点を構築し、両産業をセレクトにした経済の活性化を図る。

勝浦市チーム 閉校した市立清海小学校の校舎の活用を通じて、1つ1つの施設の独立した機能の提案に留まらない、勝浦全体を楽しくするためのトータルデザインを構築。

南房総市チーム 市内の空き施設を使い地域でチャレンジしたい人のためにインキュベーション機能と地域互助機能を備えた「お試しの場」を作る。旧観光案内所の建物を活用。

それぞれの提言はプレゼンテーションでいすれも高く評価された。今後、各市長のもとで実現の可能性が検討される。今回の提言活動を主導した鎌田元弘副学長(社

## 南房総市にCIT技術

南房総市にCIT技術 中川助教主導

本学が推進する産学協働地域活力創造プロジェクトの一環で、情報ネットワーク学科の中川泰宏助教が指導する学部3年生3人(今井駿汰さん、柄澤勇弥さん、薩摩顕蔵さん)と2年生2人(岡大輝さん、奥野知大さん)のチームが、南房総市の依頼で市の業務効率

化のためのシステム開発を行った。3年生チームが挑戦したのは、同市が導入している「パウチャー券」管理のシステム化。このパウチャー券は、子どもを塾などに通わせている家庭に交付されている所得額に応じた費用補助。通し番号でどの家庭に

交付されたか分かる仕組みだが、市役所一箇々の家庭・複数の事業者・市役所という流れの中で、正確な使用の実態を把握する作業はすべて職員の目視に委ねられていた。この問題を3年生チームは、OCR(光学式文字読取装置)とデータベ

ース検索によってコンピュータ処理するシステムを開発。3月に市役所に納品する予定だ。2年生チームは1月5、6日、同市の空き公共施設のシラハマ校舎(旧長尾幼稚園・小学校)でプロのSEとワークショップを開き、預り保育に携わるパート従業員と子どもたちの出勤システムの開発に挑戦。ICカードやスマホで出勤をチェックし、データベース化するシステムのプロトタイプを提案した。

学生によるこの2つの挑戦とは別に、中川助教は昨年12月23日、シラハマ校舎で、高大連携の試



みの一環として県立安房高校(館山市)の1、2年生9人を対象に、「感じる学問」音と画像から見た数学と物理の世界」と題する体験型の授業を実施。今年の2月11日には、第2回として7人を対象に「感じる学問」の地元定着を図る狙い。南房総地域の市町村は、さまざまに方策を講じて地域を活性化し、過疎化の進展に歯止めをかけようとしている。中川助教が南房総市で進めるこれらの「教育・研究の社会実装化」は、これからの工学教育の進路を示す本学らしい具体例と言えるだろう。

# 椿寮で ひな祭り

学生委員会主催による「ひな祭り交流会」が1月31日、新習志野キャンパスの椿寮(女子寮)で開かれ、甘酒とケーキが振る舞われた。写真：会場に準備された雛人形は、\*勝浦市から一時期子として迎えた8段飾りで、瀬戸熊修理理事長が、親元を離れて生活する女子寮生のために計らった。



交流会では瀬戸熊理事長や小宮一仁学長、学生委員会の教職員たちも参加し、あでやかな雛人形を囲んで、楽しい会が繰り広げられた。また寮生らは、交流会の様子や雛人形をスマホで撮影し、早速家族あてに送っていた。



## モンゴル写真展 開く

広大な自然、文化を紹介

本学はモンゴルの国内主要大学と交流協定を結んでいるが、相手国への理解を深めてもらうようと「モンゴル写真展」が1月17、24日、新習志野キャンパス学生食堂1階のホワイエで、また2月8、16日、津田沼キャンパス1号館の学生センター前広場で開催された。



広大な風景に魅了される来場者



写真を眺める駐日モンゴル臨時代理大使

季節の移り変わりに花々を撮影したものなど、43点が並んだ。

初日に来校した駐日モンゴル国大使館のダンバダルジャー・バッチジャルガル臨時大使は「美術工芸や文化はもちろん、自然を見て、モンゴルに興味が並んだ。」

味を持っていただけるとうれしい」と話した。通りすがりに目をどめた学生たちは「自然豊かな一方、厳しい環境もうかがえ、イメージが変わりました」「なかなか見ることが出来ない貴重な写真」と話していた。

## 同窓会



卒業論文等の審査が終了したこの時期、学生諸君はどのように過ごしているのだろうか。

仲間と卒業旅行中、あるいは会社の研修中なのだろうか。健康に留意し無事に新生活をスタートしてもらいたい。

同窓会は、昭和22年9月に冶金、機械の両学科76名が卒業以来昨年70年の節目を迎えた。それを記念し11月に大同窓会(ホームカミングデー)を全国各地から約400名の卒業生を迎えて開催した。この様子は先月号に紹介されている。

また全国に地域、職域59の支部があり、支部懇親会にはご父母が参加している支部もある。さらに、ミニ県人会の開催や就職課と連携をとりながら学生や既卒生の就職支援をしている。研究室やクラブ単位のOB・OG会の開催についても同窓会を活用して欲しい。同窓会事務局は5号館7階にあるので、お立ち寄りいただきたい。プロジェクトマネジメント学科 堀内 俊幸

## 四季雑感



この前の休日「ポリ袋で簡単!」とTVで紹介していたので、6歳の娘と自宅で豚まんを作ってみました。その日は子守り担当で、二人とも寒くて外に出る気もせず、暇そうにしてる娘に「やってみっか?」と聞いたら「やる!」との返事。

なんせ初めてなので、娘にレシピ通り小麦粉やお湯などを量ってもらいましたが、仕事柄細かい「指導」が入って、娘に怪訝そうな顔をされまして。生地とタネをそれぞれポリ袋の中でこねるのですが、この辺は保育所育ちの娘の得意分野。ここは任せて、その間こちらはお茶をすすりながら休憩。生地が膨らんだところでタネを包み、15分ほど蒸してみると、

まあそれらしき形になり、「案外できるもんなやあ」と二人で感心しました。味のほうはまだポチポチでしたが、豚まん好きの娘にとっては自分で作れたことが感動らしく、「うめえ」と言って食べていました。寒い日の暇つぶしにやった素人クッキングでしたが、二人でホカホカし、満足な休日でした。生命科学科 渡邊 宇外

## 編集だより



一月は行く、二月は逃げる、三月は去る。正月から三月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことを、調子よくいったものだ。中盤である2月、入試広報課では、まさに忙殺とも言える時期で、ギューギュー詰めが目まぐる

しい日々が続く。加えて、今年も平昌オリンピックが開催され、日本人選手らの速報も情報として取り込むため、私の脳内は常に飽和状態。極寒の厳しい条件下で、結果を十分にさせない選手らや、メダルをもたらす選手らの活躍を、日々、同僚と一喜一憂しながら過ごし、男子フィギュア「羽生結弦」の復活では昼下がりの日本列島が大きな歓喜の渦に包まれたことと思う。大会

前「誰が取ろうが僕も取る」と、金メダルへの揺るがない自信には「やっぱりすごいなあ」と言うしかない。この日、将棋界では藤井聡太五段が羽生善治竜王を破る快挙のニュースが流れた。「羽生が勝って、羽生が負けた」。社会現象級の出来事に読み方が違う同じ漢字の二人が並ぶのは、ちょっとややこしい。入試広報課 大橋 慶子

## 発見! 未来人

根本企画工業株式会社 技術部設計グループ

鳥飼 峻さん

2013年、機械サイエンス専攻修了



設計グループの職場で

在学中は「回転槽内における2種類の異形状粒子群の挙動に関する研究」に取り組みました。学部・修士時代を通して研究生活にはいろいろな思い出が詰まっていますが、特に学部では新しいテーマに取り組んだので全くの手探り状態。担当教授や修士の先輩方に助けられながら、なんとか卒業できました。

現在は、当社創業からの産業用自動化システムの開発設計を基本に、大手企業との難易度の高い共同開発に携わっています。また、管路曲がり測定装置(ネモナビ)を用いて検査測定を行っています。

事業内容 産業用自動化システムの企画開発設計・製作の「機械部門」を中心に、各種ヒーター設計・製作・据付工事、電磁誘導式非開削掘進工法(トップモール工法)の管路埋設工事、プラント工事の「工事部門」、管路曲がり測定装置(ネモナビ)のレンタル事業を併営。

所在地 〒276-0047 千葉県八千代市吉橋1095番地の15